

第28回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会

A級蹴武型・男女混合試合（選抜8名）

二度目の改正ルールによる完全決着

2連覇を狙う若きチャンピオン福島良菜（高1、15歳、福岡筑紫野TC）と さらに若い森 慎治（中2、14歳、福岡筑紫野TC）の挑戦

前年度、全日本大会より蹴武の型試合は、A級とB級の二階級制となった。

本大会では、A級蹴武型は推薦出場を廃止し、

全日本大会優勝～3位入賞者および予選会での優勝者のみが参加を許される狭き門となった。

この少数激戦は予想の範囲内であったため、A級蹴武型は2度目のルール改正が行われた。

従来は、指定型1つで決勝戦までの勝敗を決したが、

本大会からは1～2回戦において自由型と指定型の2つを演武し、

審判も一つの試合で2回判定を行うことで、1戦ごとに完全決着をはかる狙いがある。

植田博和の引退を受け、前年度、彗星のごとく表れ、さわやかな優勝を果たした最年少チャンピオン（優勝時14歳）、福島良菜（福岡筑紫野テコンドークラブ）の2連覇が期待される。

2連覇阻止の最有力挑戦者は、福島よりも若い、学年で二つ下の後輩、森 慎治（福岡筑紫野TC）である。

いずれも前年度全日本大会での華麗な飛び蹴りが本大会ポスターで採用されているとおりに蹴美力に秀でた名選手である。

蹴りの華麗さでは福島が優り、力強さでは森が優れているので、柔と剛の戦いとなるだろう。

森が優勝すれば、最年少優勝記録更新となる。



福島コメント「去年を超える演武をして優勝できるように頑張ります」

森コメント「今年こそは優勝できるように頑張ります。よろしくお願いします」

福島と森は、歳は若いですが、いずれも小学1年の頃からJTAに入門し、10年のキャリアをもつベテランである。同様に、6年のキャリアを有する武田龍倭（13歳、東京城南雑色TC）のA級蹴武型への挑戦も注目したい。



彼らは日本跆拳道の修練課程で精神および肉体的に健全な成長を遂げており、しかも一流の型の選手に成長した。少年少女部の諸君は、彼らの華麗な演武を食い入るように観戦して模範とし、近い将来、「第二の福島」、「第二の森」に成長し、両者を脅かす一流選手に成長していただきたい。

とはいうもののA級蹴武型に選抜された選手は、その全員が一流の型の選手といえる。日本跆拳道基礎理論という脳波の調整等の失敗、過度な気負い、プレッシャー等々、若い二人が己に絶対負けずといふ断言できない。

1～2回戦で福島か森のいずれかに勝利したとすれば、当該選手がそのまま勢いによって優勝する可能性が高い。ゆえに、福島および森と対戦する選手は、乾坤一擲の型を演武する意欲で戦ってもらいたい。

なお、前大会を観戦した毎日新聞の社説を執筆していたI氏をして「宗教戦争ですか？」といわしめた西谷慎一郎（東京大森TC）と相良典隆（鹿児島曾於TC）の2度目の対決にも注目したい。セコンドに宗派の僧侶が座るかどうかは不明である。

西谷コメント「諦めずに稽古をして出られる大会にはなるべく出場して経験を積んできました。すべて出し切ります」

相良コメント「今年も最南端から全日本大会という最高の舞台に立てることを誇りに思います。全力をつくします」

